

専門委員からのコメント

< 本間専門委員からのコメント >

アガリチンの遺伝毒性試験結果に関するコメント

今回提出された「アガリチンのトランスジェニックラットを用いた遺伝子突然変異試験」の結果については特にコメントは無い。本試験での動物には十分な投与量、投与期間のアガリチンが投与されており、また、遺伝子突然変異検出の陰性対照値、陽性対照値、プラークの形成効率等を考慮すると、試験は適切に実施されたと判断される。従って、全ての試験の陰性結果は十分に信用できる。また、同時に行われたアガリチンの付加体解析において、予想される 2 つの DNA 付加体が検出されなかった結果は、突然変異試験陰性の結果を裏付けるものである。

以上のことから、アガリチンは生体内 (in vivo) では遺伝毒性を示さないと判断される。

尚、アガリチン、およびアガリクス抽出液がエームス試験陽性を示した結果の原因に関しては未だ不明であるが、エームス試験特異的 (バクテリア特異的) な反応であることも予想される。この疑問の解決には哺乳類培養細胞を用いた遺伝子突然変異試験 (MLA, V79-Hprt, TK6-TK 等) が有効かもしれない。